根の研究(Root Research)9(3)：149－150(2000)

報告

乾燥地草原の回復と砂漠化の制御シンポジウム（Symposium on Rehabilitation of Grassland and Control of Desertifiction in Dry Area）に参加して

林　弥智・谷本英一
名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科

2000年6月28日から7月4日まで，中国の河北省沽源県において「乾燥地草原の回復と砂漠化の制御シンポジウム」が開催された。このシンポジウムは中国科学院石家庄農業現代化研究所と河北農業大学，鳥取大学乾燥地研究センターが主催し，中国を含めて10カ国の研究者と学生約100名が参加した。

地球には3,800万km²の砂漠化した土地があるが，そのうち32.5%がアジアにあり，そのうち，27.3%（262km²）が中国にある。北京の砂あらしは日本でも有名であるが，砂漠化は中国にとって大変深刻な問題である。本シンポジウムの目的は，草地を守り，また荒涼とした土地を草地に戻すことによって，人間活動によって壊された土壌の質や水資源のバランスを回復させ，砂漠化を制御していこうというものである。

沽源県（Guyuan Country）は河北省の西北にありモンゴル平原の南に位置する。総面積は365,000hm²，そのうち耕作地は110,000hm²，草地は100,000hm²，森林は58,000hm²，14の町と231の村があり，総人口は230,000である。内モンゴルに近い地域では風害，砂あらしなどに悩まされていて，1960年から防砂林や草原を作りはじめた。その結果，3,000hm²だった森林は58,000hm²に回復したという。

Organizing Committeeは以下の構成であった。（敬称略）Chairman: Tian Kuixiang（Shijiazuang Institute of Agricultural Modernization, CAS），Vice-chairman: Yuan Jianmin（Hebei Foreign Expert Bureau），Wang Huijun（Agricultural University of Heibei），稲永　忍（鳥取大学），また参加者はアメリカ，イギリス，カナダ，オーストラリア，ブルガリア，アルメニア，ロシア，日本，そして中国からである。

シンポジウムの一環として次のような，砂漠化の現地視察があった。砂漠化問題は専門外の私達にとって，直接現況を視察できたことは，乾燥地問題を理解する上で大変役にたった。地区ごとに警察誘導のバスに全員が乗り込み，途中からは舗装されていない道路をひたすら走って目的地に移動した。参加者は中国の自然の雄大さと同時に，河北と内モンゴルの土地と水資源の環境が回復に向かっていることをつぶさに感じることができた。主な視察地は次の3カ所であった。

Saihanba森林公園 ----- 中国有数の避暑地。総面積94,000hm²，そのうち57,000hm²が人工林，16,000hm²が天然林である。塔の上から全体を見渡すことができたが，中国の豊かで雄大な自然を感じることができた。この森は内モンゴルからの砂を防ぐ役割もはたしている。

Yudaokuのサバナ ------ここでは防砂対策として枡状に根の長いイネ科植物が植えられていたがかなり砂漠化が進んだところであった。砂をすこし掘るとしめってはいたが，照りつける日ざしはじりじりと肌を刺すようであった。

Juliancheng のアルカリ塩土壌と塩湖 ----- 塩対策として目立ったのが畝である。塩は畝の上に析出するので，作物は畝と畝の間に植え，畝の上には塩を吸収する *Suaeda glauca* Bge を植え塩の除去をはかっている。

現地視察のあと，沽源県沽源賓館でシンポジウムの講演が始まり，2日間で28人が発表した。シンポジウムとしては短かい20分の発表であったが，中国の研究者は河北省を中心に，外国からの研究者はそれぞれの国の乾燥地の現状，問題点を指摘し，それに対する解決策を提案した。最後の総合討論では次の提言がまとめられた。

(1) 北中国の砂漠化問題の深刻な状況を打破するためには，科学的な環境対策が必要である。それは効率的に改善をもたらすものでなければならない。

(2) 環境の再構築のためには貧困の問題は無視できない。中央政府と地方政府の連系をつよめていくことを支持する。

(3) 親密な国際間の協力によって，重要な経験，考え，技術を共有することができ，それによって，砂漠化問題に大きな前進をもたらすことができるだろう。

この他にも，生態学的あるいは生理学的な視点からの科学的提起がなされたが，政策的提言を重視したものに集約された。また，本シンポジウムのプロシーデイングは現在編集中である。

視察と会議の期間中は連日各地で夕食会を兼ねた懇親会が開催された。懇親会には必ずといっていいほど，その土地の市長や県長が同席し，中国特有の円卓を囲みながら楽しい時を過ごした。懇親会を通じて，各地方の行政・住民が砂漠化問題に感心が高いことが良く分かった。専門分野も出身国もまたそれぞれが抱える問題も異なる研究者が集まり，砂漠化について語り合ったこのシンポジウムは，グローバルな環境悪化を科学的に捕捉し，地域ごとにその対策を立案する上で，重要な役割をはたしたものと思う。我が国には乾燥地はないが，中国大陸の砂塵は海を越えて飛来する。広大な山野の砂漠化防止には国際協力が不可欠であるということを実感したシンポジウムであった。

なお，根研究会会員で，本シンポジウム組織委員の稲永忍・鳥取大乾燥地研究センター長が，この度，長年にわたる中国科学院・石家庄農業現代化研究所との共同研究指導の功績が認められ，同研究所から名誉教授の称号を授与されましたことをお知らせします。

シンポジウム講演発表会で，挨拶をする委員長 Tian Kuixiang 教授（左から２番目）。
その右隣が稲永忍教授。(2000.7.2.　沽源賓館にて)